

ヘアードライヤー

科学館は家電製品もコレクションしています。図1のヘアードライヤーは、そんな資料の一つで、最近の家電製品が意外とないことから、2003年に「新婚家庭がそろえる家電」というコンセプトでそのときのリーズナブルな家電一式を購入した一つです。他には懐中電灯、テレビ、エアコンなども購入、多数を2008年のリニューアル時から展示場1階で公開しています。



図1. ヘアードライヤー

さて、家電のなかで古いといえば照明です。19世紀末には使われるようになりました。逆に、最近のものといえば携帯電話などの情報家電があげられます。タッチパネル式のスマホiPhoneは2007年に発表されました。では、美容家電に位置づけられるヘアードライヤーはどれほどの歴史があるのでしょうか。実はかなり古い方で、1920年代には登場していました。ただ、当時はパワーが弱く、かつ金属製で重く、手軽に使えるものではなかったようです。1937年には300Wのドライヤーが登場しますが、戦争などもあり普及せず、また、温度制御などもなく、扱いには慣れが必要なものでした。戦後は1955年に家庭用ドライヤーが再登場し、1970年くらいには温度制御つきのとりあつかいやすい製品が登場します。並行して素材革命もあり、プラスチック製

で軽量なドライヤーが1970年代後半から普及していきます。(図2)。消費電力も1000Wに達します。昔はブレーカーがよく落ちました。これも展示していますので、展示場が再開したら実物をご覧ください。いまからみるとゴツイ感じですが、当時は画期的だったんですね。

ところでヘアードライヤー開発の直近のテーマはコードレスだそうです。さて、いつエポックな製品がでますか。



図2. 1970年代のヘアードライヤー

渡部 義弥(科学館学芸員)